

驚異の機能性、魅力のラインナップ…

新時代の“鉄道模型玩具”

MICRO IR

DigiQ TRAIN
デジQトレイン™

取材：RMM / 写真：服部好弘
取材協力：コナミ株式会社
<http://www.konami.co.jp/cp/>

KONAMI から MICRO IR デジQトレイン™ 登場!



© 2002 KONAMI

まもなく発売になるコナミの MICRO IR デジQトレイン™(以下デジQトレイン)は、MICRO IR™(以下 MICRO IR)と呼ばれるコナミの新開発による赤外線利用の遠隔操作システムを使った高度なコントロールをはじめ、既存の鉄道玩具にはない機能性が大きな話題となっている。

デジQトレインは「鉄道模型玩具」と謳われている。手許のコントローラーの操作によってレール上の車輛のスピード、進行方向などを自在に制御可能。これだけでも驚きだが、さらに1台のコントローラーに8編成の列車を登録することができ、そのうちの任意の編成を選んで走らせることができる。コントローラーが複数あれば同一線路上で最大4輛の列

車を同時に動かすことができるという。レイアウト上に32編成の列車を置いておき、そのうちの4編成を同時に走らせることができるのだ。つまり鉄道模型と同等、いや、それ以上に高度なコントロールが可能なのである。まさに画期的なシステムと言える。

これだけの機能を持ちながら、コントローラーと線路の間に配線は一切不要。動力車に組み込まれた充電式ニッケル水素バッテリーを走行用電源として使い、コントローラーから発せられる赤外線指令で無線コントロールを行うのが基本的な仕組み。高度な運転をきわめてシンプルに楽しめるのである。

加えて気になるのが製品化される車輛のラインナップ。デジQトレイン第1弾として500

系新幹線他、EF65およびEF58の牽く24系25形客車(ブルートレイン)、DF50の牽く旧形客車の計4種が発売される。その後のラインナップには新幹線電車各種や253系、205系などに加え、583系、485系ボンネットタイプ、165系、151系、キハ82系など国鉄の名車がズラリ。さらに80系(1次車と2次車の両方)や70系、キハ10系などの渋い車種も含まれている。往年の国鉄車輛は根強い人気を保っているとはいえ、単なる販売戦略というだけでは説明できない、なにがしかの思い入れを感じるのには筆者だけではないだろう。

話題の鉄道模型玩具、デジQトレインの発売を前に、開発担当ディレクターの和田仁吾氏にお話を伺った。



コナミ・デジQトレインの開発担当ディレクター。発売を目前にした製品群を前に言葉にも熱がこもる。

EF58のサイドビュー。小さいながらも凝ったデフォルメで見たえがある。目立たない下回りもしっかり実車イメージに合わせた作りこみがなされているのがおわかりいただけます。

デジQトレインの頭脳であるコントローラー。ここから発信される赤外線指令により、高度なコントロールが可能だ。電池またはACアダプター電源を使用する。



の表現もある。

「そうですね、EF58は人気のプロトタイプだけに、イメージ把握には特に気を使いました。試作段階では前後の掴み棒を表現していたんですが、後部の客車と連結する側では曲線通過の際に干渉してしまうので、省略せざるをえなくなりました。でもそれでは気が済まないの、鑑賞時などには交換できるように端梁パーツを取り外せるようにして、前部のパーツと互換性を持たせるようにしたんです。将来はさらに改良したいと思っています。ゴハチのリベンジですね」

「カプラーはNゲージでも使われているアーノルトタイプを採用しているんですが、機関車の前部にこれを付けると、どうも実車の印象を壊してしまう。一方でデジQトレインのコントロール機能を生かして遊ぶことを考えると、機関車には前後とも連結可能なカプラーが付いている方がいい。結局、第1弾の製品ではイメージを大事にして前部カプラーはダ

「車種の選定については、上司からのアドバイスもありまして...」

デジQトレインの初回発売の製品群を前にして担当者は言う。

「ただ、それを鵜呑みにしていると商品ラインナップ上どうなのかな、とも当初は思っていたんです。でも御誌をはじめいろいろな雑誌を見たり、鉄道に詳しい人に話を聞いたりしているうちに、国鉄型主体の渋めのラインナップ構成は狙いとしてははずれていないと感じるようになりました。うちの特徴にもなりますしね。それにいろいろ調べたりしているうちに僕自身がハマってしまったこともあります。いやあ、知れば知るほど奥が深いというか、面白いんですよ、やっぱり。自分が面白いと感じるものをぶつけていかないと、商品としても面白いものはいけませんよ」

国鉄の車輛の製品化にあたっては、資料集めなどで難しい面もあるという。

「それでも思い入れのある車輛は製品化したいですからね。こういう気持ちはレイルファンのみなさんと同じかもしれません」

それにしてもディープなラインナップである。キハ10系とか、70系電車とか、本当に

出るんですか？

「出しますよ、ちゃんと。第6弾とか第7弾あたりになるかもしれませんが...。今後約3ヶ月ごとに4編成ずつ発売していく予定です。第2弾ではまずファン層を拡げようという狙いで、70系新幹線、成田エクスプレス、205系と比較的一般受けする題材を中心としています。と言っても残る1種はキハ183系なんです(笑)。そのあとはいいよ渋い車輛が続々と登場しますよ」

御自身かなり鉄道には造詣が深いご様子。かつてはNゲージに没頭していたとか...

「車輛よりもレールに興味があったんです。ちょっと変わったタイプだったかもしれませんが。デジQトレインの開発でもレールの方から入っていったんですね。それからやむにやまれずと言いますが、車輛の開発にとりかかって、すっかり目覚めてしまったというのが正直なところです」

ところで小さいながらも実車のイメージを的確に掴んだデフォルメがデジQトレインの身上。かなりのこだわりが感じられる部分が各所にある。目立たない下回りディテールもちゃんと実車イメージに沿って作り分けられているし、EF58ではダミーながら先台車



DF50のクローズアップ。デジQトレインの方向性を如実に示す、渋いプロトタイプ選定を歓迎する向きも多いことだろう。



デジQトレインが架ける橋

小さなスペースで充実した走りを楽しめる。それがデジQトレインの基本コンセプトの1つ。テーブルトップで余裕を持って遊べるサイズに設定されたこの製品は、リーズナブルな価格とあいまって鉄道模型の潜在ユーザー層もひきつけそう。言ってみれば模型と玩具の間の掛け橋とも呼べるだろう。

もう1つ、実物のレイルファンが手軽に遊ぶのにもいい。興味はあっても模型まで手掛ける時間がないし、普通のおもちゃでは満足できないというあなたも、デジQトレインなら満足できるのでは？ もちろん、鉄道模型入門のウォーミングアップにも最適だ。

ちなみに4編成での大きさはこのくらい(約25cm)。

デフォルメの美学

デジQトレインのデフォルメは単なる簡略化とは違う。その独特の味わいについては現物を御覧いただくのが一番だが、通好みのプロトタイプがどのように「料理」されているかを見るのは、これまでにはなかった楽しみだ。ちなみに現時点で発表されている今後の製品化ラインナップとしては、新幹線700系・300系・0系、583系、485系ボンネット車、253系、205系（山手線および京葉線）、165系、151系、80系（1次車および2次車）、70系、キハ183系、キハ181系、キハ80系（81系か?）、キハ82系、キハ58系、キハ20系、キハ10系となっている。5月30日発売の第1弾は新幹線500系、EF58+24系25形客車、EF65+24系25形客車、DF50+旧形客車の4種。あなたはどれを選ぶ? 筆者はDF50がいいなあ。



デジQトレインの第1弾の車輛ラインナップは御覧の4種。新幹線500系、EF58+24系25形客車、EF65(500番代)+24系25形客車、DF50+旧形客車。今後も往年の国鉄型を中心に続々とリリースされるといふ。

ミーで表現することにしました。将来的には前後ともカブラー付きのシャシーを使ったバージョンも用意したいと思っています」

作り手のものに対する愛情、情熱が伝わってくるのではないかな。

「僕たちがテキトウに作って、ユーザーの皆さんに喜んでいただけるものができるはずはありませんものね。やはり手ごたえというか、出来上がってきたものを見て心底嬉しくなるような、そういうものを作らないと。その点このデジQトレインの開発は、大変だけど面白い仕事だと思っています」

一方でユーザーが何を求めているかは、常に気になるところだという。

「この製品には様々な可能性が秘められています。技術的にもまだまだいろんな機能を加えることができるし、また製品化する車種にしても、もちろん無限に近いバラエティがある。そんな中で、デジQトレインに何が求められているのかは、ある意味で手探りに近い状況で開発がすすめられてきました。発売前のアンケートで寄せられた要望などではできる限り反映してきましたが、今後は実際に楽し

んでみて頂いたたくさんの方々から、一層具体的な要望をお寄せいただけるのではないかと期待しています。今後のデジQトレインがどのように発展していくのかは、皆さんの要望次第である部分が非常に大きいのです」

和田さんの頭の中にはデジQトレインの今後をめぐって様々なアイデアや計画がうずまいているようだ。

「路面電車シリーズの第1弾として、名鉄モ510を開発中です。大手私鉄シリーズも進行予定中です。蒸機もやりたいんですが、まずはDD51などのスリムなボディに動力機構をおさめることをやらないと...。入換運転も楽しめる性質からDE10も是非やりたい。走りの観点からもリアルさの点からも4軸駆動の動力車も開発したい。個人的にはEH10も是非やりたいんです。そのための2車体用動力ユニットを開発するか、それとも汎用性の高い4軸動力ユニットを先にやるか思案のしどころですね...」

開発担当者の熱い想いがこめられた製品。注目のコナミデジQトレイン初回製品群はいよいよ5月30日に発売の運びとなる。

コナミ・デジQトレイン第1弾ラインナップ (5月30日発売)

S-001	新幹線500系基本運転セット	5,980円
(500系4輛編成、コントローラー、ストレートレール132mm×8本、カーブレールR176×8本)		
T-001	EF58+24系25形客車	2,980円
(オハネ25×2/オハネフ25)		
T-002	EF65+24系25形客車	2,980円
(オハネ25×2/オハネフ25)		
T-003	DF50+旧形客車	2,980円
(スハ43×2/スハフ42)		
R-001	ストレートレール132mm	300円
(4本)		
R-002	ストレートレール198mm	350円
(4本)		
R-003	カーブレールR132-45°	300円
(4本)		
R-004	カーブレールR176-45°	350円
(4本入り)		
E-004	デジQトレイン専用コントローラー	3,000円
(価格は全て税別価格)		

読者プレゼント!!

コナミ株式会社様のご厚意により
新幹線500系基本運転セットと
EF58+24系25形客車
新幹線500系基本運転セットと
EF65+24系25形客車
新幹線500系基本運転セットと
DF50+旧形客車
を各3名様にプレゼントいたします。
希望商品名と住所・氏名・年齢・職業と
商品化して欲しい車輛をハガキにご記入
の上ご応募下さい。
宛先 〒152-8545
東京都目黒区碑文谷4-21-13
株式会社ネコ・パブリッシング
レイルマガジン・デジQトレイン係



デジQトレイン 先行販売に注目

5月30日の発売を前に、26日(日曜)にはデジQトレインの先行販売が東京・銀座の博品館で行われる。基本セットを購入すると特典として、増結用客車セットを入手できること。他では手にはいらないこのセットによって、迫力の長編成が楽しめる。これは見逃せない情報だ。



博品館 TOY PARK : 03-3571-8008
ホームページURL : www.hakuhinkan.co.jp



デジQトレインは作りこまれたジオラマにもフィットするリアリティを持つ。ちなみに写真の車輛は今夏発売予定の第2弾ラインナップである。